

おなかの悩み解決します！ 便秘と下痢のマネジメント

日常診療の現場では、便秘や下痢といった便通異常を主訴に受診する患者に対応する場面が非常に多い。市販薬で対処可能な一過性の症状から、悪性腫瘍、器質的な炎症性疾患など見逃せない背景疾患が潜む症例、長期的に対処が必要な慢性機能性疾患まで、その病態は多岐にわたる。適切な診療のためには単に症状に対処するのではなく、それぞれの患者をどこまで評価し、どのように治療するか、どの状態になれば専門医へ紹介するかという一連の判断を系統立てて行うことが求められる。

近年、わが国でも便通異常症に関する診療ガイドラインが整備され、慢性便秘症および慢性下痢症の定義や診断基準、治療アルゴリズムが示された。特に、新規作用機序を有する下剤や止痢薬の登場により薬物治療の選択肢は大きく広がり、症状コントロールの向上が期待される一方で、適切な薬剤選択や使い分けに戸惑う場面も増えている。また、小児や高齢者では標準的アルゴリズムをそのまま適応させることが難しいことも少なくない。こうした背景からガイドラインの内容をふまつつ、実臨床の文脈で「使いこなす」ための実践的かつ具体的な対処法が必要とされている。

そこで本特集では、慢性便秘症・慢性下痢症の定義、診断基準、病型分類、病態を整理しつつ、日常診療でおさえるべきポイントについて解説する。また、ガイドラインと最新のエビデンスに基づく薬物療法アルゴリズムを提唱しており、エキスパートの迷わない薬剤選択を紹介している。さらに薬物療法に難渋する症例に対して非薬物療法の最前線の実際を提示することで、専門医への紹介時に患者に対してリアルな説明を可能とする内容となった。

本特集を通じて一般内科医や実地医家、若手医師が、便通異常を訴える患者に対して過不足のない診断と治療を行い、必要時には適切に専門医へつなぐことができるようになれば幸いである。最後に、ご多忙にもかかわらず原稿をご執筆いただいた諸先生に感謝申し上げます。

筑波大学医学医療系消化器内科
土屋輝一郎